

中高生の性行動を調査し、エイズや性感染症の予防を図る教育を全国に広める活動をしている京都大学准教授（社会疫学）の木原雅子さん(56)が28日、高知市丸ノ内2丁目の高知城ホールで講演。写真などについて、教員や医師ら60人余りが理解を深めた。

木原さんは全国の高生にアンケートを行い、エイズ対策を国連と連携して研究。2004年から国の依頼で

# 性教育「つながり」大切

## 京大・木原准教授が講演

高知市



グループワーク形式の性教育を推進し、本県を含む42都道府県で実践がある。

手が4人以上と答えた生徒が2割近いという現状を紹介。

講演では、高校生約1万人へのアンケートで、性経験があるとして生徒が1年生で10%以上、3年生で30%を超え、経験者のうち相

短期間で次々と交際する子が多い。なぜかと聞くと、皆『間がもたない』と答える。人と関係を築くのが苦手で、そのプロセスを省く子どもの姿がうか

がえる」と解説した。

背景として、高校生が1日に携帯電話を利用する時間が男子で平均2・8時間、女子で4・2時間だった昨年の調査に触れ、「プログなどを通してバーチャルな人間関係が膨れ上がっている。『家族とよく会話をする』子に比べ、『全然話さない』と答えた子は性経験率が2倍以上高い。人とのつながりを強めることが性の問題解決につながる」と話した。

実際の授業風景の映像を上映。「泣いて登校しよう」としない娘に、親のあなたはどうか対処しますか?」などの問いに、「担任の先生と相談する」「学校だけが人生じゃないと伝える」と、生徒が話し合いながら、考えを伝え合う姿を紹介し、「単に『コンドームを着けましょう』では駄目。自分や相手を守る大切さに気付く場を提供することが大事」と訴えた。

(福田一昂)